
残業

きなこ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

残業

【Nコード】

N9119L

【作者名】

きなこ

【あらすじ】

新入社員と課長と新川さん

「世界の60億以上の人が皆、限りなく優しいでしょう。」

突然、山辺課長が隣で呟いた。因みに今は残業中で、社員は僕と課長、それに会計の新川さんだけだ。

「そうだったとしたらどうなると思うかね？」

「ええ……平和になるんじゃないですか？」

新川さんは仕事を早く終わらせて恋人と会いたいようだったので、僕が答えておいた。

「それは違うよ。」

課長はキーボードをカタカタいわせながら言う。

「だって、皆優しくしたら、誰が動物を殺すんだい？誰が木をきるんだい？きつと他にも支障が出るはずだ。世界は上手く回らなくなるだろう。」

課長は至極真面目な顔で僕を見た。

「はあ……（そんなに優しくなるんだ……）でも、優しさにこしたことは無いと思います。」

「そうだろうね。私もそう思うよ。」

課長はまたパソコンの画面に向き直って仕事を始めた。だからその話はここまでだと思ったのだが、しばらくして課長は新川さんにも問いかけた。

「新川君、新川君。君はどう思う?」

「はぁ……。まあ、私がこの前あったおじいさんは鶏を平気で殺しますがとても優しい人でした。」

「うむ……。そうか……。。」

課長はまた至極真面目な顔で新川さんの回答を吟味しているようだった。

「ああ、じゃあ、あれだな。世界の人は皆優しいということだ。」

課長の思考回路はどこかでショートしてしまったらしい。なにがどうなったらその結論に達するのか。

そんな僕の困惑をよそに、新川さんはそうですね、と呟いて更に「私も帰りますね」とかい出したものだから僕はもうびっくりだ。

「ええ……（課長と2人きりじゃん）……お疲れ様です……。」

「うむ。お疲れ。」 課長は僕の気持ちなんか知らない。

新川さんが僕にだけ分かるように口パクで”頑張れ”とか言ったような気がするけど、何をどう頑張ればいいのか分からない。

とりあえず課長のことは気にせずに仕事をしよう。早く終わらせて家に帰ろう。

「ああ、・・・ところで佐久間君。」

課長がこの先僕の気持ちを察してくれることがあるのだろうかとかと、不安になる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9119/>

残業

2010年10月14日18時33分発行